

長崎イノベーション塾



塾長 谷口 竜一

■ 塾長コメント ■

イノベーション塾を通して

最近では、「イノベーション」という言葉、本来の“技術革新”のみならず、あらゆる分野において使われるようになってきました。私どもは、三藤利雄教授(現 大阪摂南大学教授)との御縁で8年前からイノベーションについて学んでまいりました。「ナガサキ」には歴史的資産、そして「人と人との繋がり」の物語がたくさんあります。当塾では、ナガサキが持つ高いポテンシャルを「どう生かし、それをどう普及していくのか。」をテーマとし活動しています。長崎伝習所塾を介しての出会い、そして共感。「トーマス・B・グラバー大河ドラマ化計画」をはじめ、「金蝶ソースせんべいの商品化」等、様々なプロジェクトに挑戦しております。各プロジェクトは正にその長崎地域市民発のイノベーション事例であり、多くの方々にイノベーションをより身近なものと感じていただく、イノベーション普及のカタチとして実践いたしました。

これからもより多くの方々との共感、そして

共に普及・実践を継続していけたら幸いです。

■ 塾の目的 ■

長崎の魅力づくりには、長崎伝習所の設立目的と同様に、市民・行政の垣根を越えて、共に、地域の魅力についてより広く深く学びながら、市民自身もそのわかりやすい表現と、発信力を育んでいく事が大切だと思われまます。当塾では、昨年度に引き続き、長崎特有の魅力再構築のために、市民発の長崎ブランド形成過程に起きる課題を経営学分野の情報イノベーション普及論と重ねながら解決策を共有し、新しい地域の魅力について協働しながら地域ブランドを「ものがたり化」新しく創造・再構築することを目的とし、その普及について議論研究して参りました。

■ 平成22年度の塾の研究・活動内容 ■

長崎東山手の歴史的建造物を民間で活用している地球館(国際交流塾運営)を会場に、「市民参加」をキーワードに、地方都市長崎の地域・社会・企業・経済が抱える諸問題についての情報の共有化および問題解決への糸口探しとその具体的実践を行いました。

具体的には下記の内容です。

1・定例会により本地域内の組織(企業・ボランティア団体など)の運営や個々の事業における生産性やサービス、ライフスタイルなど様々な形態における成長過程での成功・失敗事例を共有。長崎や長崎で活動する団体が抱える問題点や改善すべき点等を抽出。



2・目標設定と目標達成のための方法や解決策を提案

長崎居留地まつり実行委員会、長崎グランドデザイン研究会、茂木地域資源活用委員会、財団法人孔子廟への提言及び協力

3・現場研修（フィールドサーベイ）を実施。

長崎まちなかおよび周辺部
各ミュージアムショップなど

4・地域イノベーション研究実践者との交流

（財）長崎地域政策研究所 菊森淳文氏
ティア銅座店 久保山健司氏
横尾西部自治会生ごみリサイクル部の皆様

5・長崎金蝶ソースせんべいセットアップ

6・茂木地域資源活用事業委員会への助言



■平成 23 年度以降の活動展開予定■

本塾で培った「市民力による地域イノベーション」と、ネットワークによって、今後もワークショップ・フィールドサーベイなどの実践を繰り返し、行政との市民協働の運営を模索しながらこの活動を継続して参ります。

さらに「ながさき歴史・交流トラスト認定商品」の商品化も具現化むけて活動を継続できる運営母体の構築に向けて検討して参ります。



■最後に■

今年度で長崎伝習所としての活動に一区切りですが、今後も継続して活動して参ります。今はまだ小さな私どもの長崎イノベーション塾の活動が、長崎市民の皆様の自己実現、やがては長崎地域や社会活性化への貢献となることを実践して参ります。

塾活動を通して頂いた「御縁」並びに多大なご支援に心から感謝申し上げます。